

会 議 録

| | |
|-------------------------------|---|
| 会議の名称 | 令和4年度第2回 さど未来創造・戦略推進会議 |
| 開催日時 | 令和4年9月6日（火） 午前10時から12時 |
| 場所 | 金井コミュニティセンター2階大会議室 |
| 次 第 | 1 「佐渡島振興計画（素案）」の作成について 2 その他 |
| 会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由） | 公開 |
| 出席者 | ・学識有識者ほか13名 （事務局） 企画財政部総合政策課政策推進室 室長 安藤 辰也 企画財政部総合政策課政策推進室政策推進係 係長 中川 直子 主任 松本 亜沙美 主任 福島 雅麗 |
| 会議資料 | ・資料No.1「佐渡島振興計画（素案）」の作成について ・資料No.2 佐渡島振興計画（素案）令和4年8月時点 ・資料No.3 令和3年度 地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告（案） ・令和3年度地方創生推進交付金に係る事業実施報告に対する意見書 ・資料No.4 佐渡市新型コロナウイルス感染症対策・令和2年度事業に係る効果検証（案） |
| 傍聴人の数 | 報道機関2名 |
| 備考 | |

| 会議の概要（発言の要旨） | |
|--------------------|--|
| 発言者 | 議題・発言・結果等 |
| 総合政策課 福嶋 | <p>進行につきましては、さど未来創造・戦略推進会議開催要綱において座長が進行することになっておりますが、座長が選任されるまでの間、事務局で務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、次第に従いまして、1. 開会ということで、総合政策課政策推進室長よりご挨拶申し上げます。</p> |
| 総合政策課 安藤政 策推進室長 | <p>総合政策課の安藤と申します。よろしくお願いいたします。本日はお忙しい中第2回さど未来創造・戦略推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の議題につきましては、佐渡島振興計画（素案）の作成についてとなっております。現在の離島振興法は、今年度で期限を迎えることから、改正法の成立に伴って、この佐渡島振興画を新たに策定する必要があります。市民の目線、また有識者の視点から、忌憚のないご意見をいただければと思っております。</p> <p>また、その他案件で本日2件ございます。1件は、地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告、これは第1回のご意見いただいたものを修正しまして、後ほど事務局の方から報告させていただきたいと思っております。もう1件ございまして、佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能なまちづくり推進条例となります。これにつきましても第1回のご意見、市民の役割や事業所の役割について書きぶりをもう少し検討したらどうかというようなご意見をいただいております。今現在、他市の状況も踏まえて検討しております。</p> <p>また、この推進条例につきましては、佐渡市が重点的に取り組んでおります生物多様性の取り組みの中で、新たな目標として、生物多様性の保全に留まらず、2030年までに回復するというような目標もありますので、そういった考え方も、この条例の中にどういうふうに組み込んでいくか、そういう部分も庁内で今現在検討しておりますので、整い次第、また皆さんにお諮りしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>報告も兼ねての挨拶になりました。本日は2時間という長丁場になりますが、よろしくお願いいたします。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>それでは、次第に従いまして進めていきたいと思っております。</p> <p>座長の選任についてですが、さど未来創造・戦略推進会議開催要綱第4条の規定により、参加者の互選により選任することとなっております。座長に立候補される方、あるいは推薦される方はいらっしゃいますか。</p> |

| | |
|----------|---|
| | <p>立候補、推薦がないようですので、事務局の案といたしましては、G氏へお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。異議がないようですので、G氏へお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、G氏よろしく申し上げます。</p> |
| 座長 | <p>座長に選任されたGです。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは次第3の協議事項に入ります。「佐渡島振興計画（素案）」の作成について事務局から説明をお願いします。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>「佐渡島振興計画（素案）」の作成について、資料 No.1 に沿ってご説明させていただきます。</p> <p>1. 背景について、前回の会議で既にご覧にお知らせさせていただいている内容ですが、「離島振興計画」は離島振興法を根拠にしたもので、現行計画は10年前の平成25年に制定されたものです。今回、改正法の成立にあわせて、新たな計画を策定することになりますが、離島振興法によりますと、国では各都道府県の離島振興計画が円滑に実施されるように交付金や地方債といった財政上の措置を行うこととされておりますので、離島という、他の地域と比較して厳しい条件におかれている中で、国からの支援を受けるために、この計画は非常に重要なものとなります。</p> <p>計画自体は三部構成となっており、佐渡市としては、下表にある第2部の「佐渡島振興計画」の素案を作成して県に提出することになります。改正法の成立前ですが、今年度中に計画策定作業が完了する必要があることを見越した上で、先行して佐渡市内部での作業を進めているものです。</p> <p>2. 作成手順について、(1)は既に作業が完了している部分ですが、市役所内の関係課へ依頼して資料 No.2 の8月時点での素案ができてきている状態です。関係課への依頼事項としては資料記載のとおりとなります。本日の会議で皆様へお願いしたいのは、資料 No.2 の素案に対して、住民としての視点、有識者の視点から、幅広くご意見をいただくということになります。本日欠席の方を含めて、皆様からいただいたご意見を踏まえて、庁内で調整・修正を行い、改正法成立前の素案を完成したいと考えています。</p> <p>3以降は参考ですが、計画素案について補足的に説明させていただきます。社会情勢などの背景として、昨今の佐渡市における大きな変化について、甚だ簡単ではありますが、3. 本市の現状と課題としてまとめています。まず、人口・高齢者割合としては、国勢調査でのこの20年間での変化をみると、このような数値の推移となっております。年間千人ずつ人口が減り、高齢化率も40%を超えている状況です。また、特に離島として重要な交通インフラについてですが、航路</p> |

事業者の経営難からカーフェリーが売却されたことで、貨物を含めた輸送体制に大きな変化が生じている一方、空路についてはLCCが就航を計画しているという前向きなニュースもあります。社会経済情勢としては、引き続き大きな課題となっている様々な分野での担い手不足の解消に向けた生産性の向上や高付加価値化、島内循環等が求められている中で、ICT技術の進歩やSDGsの推進など、世の中が進んできている部分も出てきています。また、昨今のコロナ禍の影響は本市も例外ではなく大きく影響を受けているところでありますし、世界遺産については先日ユネスコから不備の指摘があり、政府として推薦書の再提出に向けた調整を行っているところですが、20年以上に渡る取り組みの中で国内推薦が決定したことは大きな一歩であり、佐渡市としても今後の施策にも登録を目前とした状況が反映されてくるべきものであると思われま

す。以上のような背景のもとに資料No.2の素案のポイントをまとめたのが、4.【参考】改訂ポイントとなります。まず、第1章「地域の現状と課題」については、この10年での変化を踏まえて記載をアップデートしており、また、統計資料の数値は最新のものに更新しています。第2章「振興の基本的方針」については、もともと市の最上位計画である佐渡市総合計画の基本目標を転記する形で、整合を図ることを明言していたものです。この10年の間に、佐渡市総合計画自体も新しくなっているため、新たな総合計画の基本目標を素案に転記する形をとっています。関連する計画として、まち・ひと・しごとの創生総合戦略や有人国境離島の計画とも整合性を図ることを明記しています。

最後に、第3章「課題別の振興方向」では、第1章の現状・課題を踏まえて、今後の振興方向が記載されています。主だった内容についてこちらに抜粋しておりますが、継続的な維持管理が主な目標になるものもあれば、ある程度チャレンジングに実証等に取り組んでいくものもあって、継続が目立つ項目もあれば、新規性に富む項目もある状況です。

最後に、5.今後のスケジュールについてです。既に前回会議でお知らせしている内容から大きな変化はありませんが、本日の会議で、この後、皆様から素案へご意見をいただき、ご意見を踏まえて素案を完成しまして、次の未来会議としては、改正法の成立後に、国・県からの意見を踏まえて再度庁内で調整を行った後に開催することになりますので、冬の時期になると思われま

す。改正法の内容や国・県からの意見がどのようなものになるかは未定ですので、スケジュールの変更もありえますが、現時点ではこのように予定しております。

説明は以上です。計画素案について、ご意見をお願いします。

| | |
|----------|--|
| 座長 | 事務局から、住民としての視点、有識者としての視点から、幅広くご意見をいただきたいとの説明がありましたので、皆様からお一人ずつお気づきの点についてご意見をお願いしたいと思います。 |
| A 氏 | <p>一通り振興計画を見させていただきました。非常に総花的に現状をよく捉えているなどは思いました。私たちの漁業関係のことについて少し詳しく見たつもりですが、一次産業ということでの佐渡における状況の厳しさというものが、あまり反映されてないと感じました。</p> <p>実は漁業に関しては非常に今、深刻な問題がたくさんございまして、まずは従業している方々の高齢化、それから漁獲量、特に水温が影響しているのかと思いましたが、漁獲量が非常に激減しています。さらに、ご存知だと思いますが、マグロの規制、TAC 規制とありますが、規制が非常に入ってしまっていて、獲ったものが売れないというような状況があります。さらにはコロナのために、魚価が安くなっている。そんな状況がたくさん周りにありますが、その辺の内容については何も踏み込まれていないなというふうに感じました。</p> <p>従って、そういうふうなものの対策も含めて、一次産業のあり方というものをよく検討していただければというふうに感じました。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>高齢化、漁獲量の減少、国の規制、そして魚価も下がっているということで、4 点のご指摘をいただきました。</p> <p>佐渡市の水産セクションの方でも、担い手の高齢化の部分に関しては非常に強く問題意識をもっているところで、特に新規の漁業就業者については、令和 2 年から市役所の中に就業を支援するセンターを設けて、新規漁業者を獲得していこうという体制を整えたところです。実績としては、この 2 年で既に数名が新規に就業しており、成果が出てきつつあるところですので、引き続き取組を進めていくということになると思います。一方で、漁獲量に関しては、交付金の実績資料などを見ている中でも、実際に 1,000 トン単位で減ってきており、計画上の目標の漁獲量を下方修正せざるを得ない状況です。海の状況によるところでもあるのかなとは思いますが、課題としては非常に重く受けとめているところです。魚価についても同様です。</p> <p>規制の部分については、確かに計画上に記載がない状態だと思いますので、水産セクションに相談をしてみて、今いただいた 4 つのポイントも改めて振り返って記載を修正していきたいと思います。</p> |
| B 氏 | 一通り目を通してみました。11 ページ (2) 2 が林業の現状ということで、森林面積が 71%で県全体の 68%を上回っているという文言は、広い面積があるということを書きたいのでしょうか、このような書き方でいいのか少し気になりました。また、シイタケの生産量が最盛期の 4%程度とありますが、こんなに落ちているのか疑問を感じました。 |

| | |
|-----------------|--|
| <p>総合政策課 福嶋</p> | <p>各課での作業の状況というのが、現行計画から数字を直す形でアップデートしている状態で、基本的な部分が変わっていないのかなというところがあります。特に冒頭の県全体との比較のところは、確かに書きぶりとして文意が定まっていなと思いますし、削除するか、少し書きぶりを改めるか対応が必要だと思いました。生産量が最盛期の4%になっているというところは、担当の方にもう一度この数値が正しいか確認をさせていただきますが、今後のしいたけの生産向上に向けてどのくらい推進力があるのかというところに繋がってくるものと思いますので、その辺りも含めて確認させていただきます。</p> |
| <p>C氏</p> | <p>資料を一通り読ませていただきました。私の方からは、最近仕事をしている中で感じていることとお話させていただきます。</p> <p>今年度に入ってから、中学、高校に向けてマナー講座をさせていただいておりまして、7月にある高校に行きました。インターンシップを控えた高校生約30名に向けて講座をさせていただいたのですが、本当にざわざわしていて、とてもマナーを教えるというような状況ではありませんでした。マナー以前の問題で、この子たちが高校を卒業して、佐渡に残って仕事をしていって大丈夫なのか非常に心配になりました。一方で、先日ある限界集落にある中学校にマナー講座に行った際は、全校生徒1年生から3年まで14名参加していただいたのですが、本当に皆さん素直で、この違いは何だろうと思いました。</p> <p>身内の学校関係者に聞いてみたところ、きっとその差は地域が育てているかどうかじゃないかとのことでした。佐渡学などのふるさと学習や、伝統芸能やボランティア、高齢者のような先人の知恵を持った人たちと関わるとか、そうしたことを通して、佐渡島民みんなで子どもたちを育てていくようなことがもっとできないかなと感じています。</p> |
| <p>総合政策課 福嶋</p> | <p>佐渡市としても、学校に任せっきりにするのではなく、地域としてバックアップしていかなければならないという考え方がここ数年で非常に高まってきているところだと思います。</p> <p>特に近年高校の存続問題が出てきており、それが直接的なきっかけということではありませんが、佐渡教育コンソーシアムというものを設立しております。皆様にもご協力をいただいているところですが、学校だけではなく、地域や企業、大学など、様々な方面からバックアップをしていかなければいけないという認識は強く持っているところです。</p> <p>子どもたちに佐渡を好きになってもらって、もしかしたら佐渡から出てしまうかもしれませんが、いったん離れて戻ってくる人もいれば、遠くから佐渡を応援してくれる人もいればというところで、大人</p> |

| | |
|----------|--|
| | <p>になってからも佐渡を大切に想ってもらえるように、高校までの間に地域が子どもたちを育てていくということは非常に大事だと思います。</p> <p>計画素案では、教育コンソーシアム等について、課題の部分に要素があまり表れてきていないので、振興方向と繋がるような形に整えていきたいと思います。</p> |
| D 氏 | <p>この計画が、国の交付金を取りに行く都合上、新たな取り組みも踏まえて読み込めるように作ってあるということは理解しています。</p> <p>地域の経済を考えたとき、地域内循環の推進を図った方が経済としては効率的です。その観点で計画の内容を見てみると、生産者や消費者に近いところでのアプローチしか書いてありませんが、実際にその地域内循環のポイントになるのは卸売や問屋さんです。ここへのアプローチが、佐渡に限らず、国全体で抜けているのではと思います。各課任せにすると担当しているセクションがないので、抜け落ちてしまいます。どこかに書いていないと、おそらく地域内での改善というのは図れないと思います。現状ではどうしようもないところですが、どこかに読み込めるように作っておいた方がいいような気がします。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>ご指摘いただいたお話は、そのとおりにかなと思っておりまして、生産者と消費者を繋ぐ、卸売や問屋というお話がありましたが、そういった部分で佐渡市の取り組みとして近いのは、販売網構築事業になるのかなと思います。</p> <p>今、DXの流れがある中で、卸売や問屋というよりは地域の商店などが、島内での利用だけでなく島外にも販売できるように、「さどおしな」というプラットフォームのウェブサイトを市で作って、産業振興課の方で運営しています。地域の商店の方々、小規模なお店をやってらっしゃる方々がこのポータルサイトに集まってきて、佐渡産品を全国に販売していくような動きがある中で、離島活性化交付金も活用しながら事業を推進しているところです。確かに計画上の書きぶりとして、販売力の強化を図っていくという部分が薄いので、もう少し厚めにしていきたいと思います。卸売や問屋の部分をどういう形で記載できるかということについても相談してみたいと思います。</p> |
| E 氏 | <p>13 ページに書かれている第 2 次産業について少し述べさせていただきます。表をみると、製造業の事業所の数や、雇用者の人数、出荷額等について、人口減が激しい中においては他の産業よりは安定しているのかなと思われます。</p> <p>市の方からも様々な支援をいただいているところですが、これから一番心配になってくるのは雇用の確保になってくると思います。先ほど C さんがおっしゃったように、新卒の社員を入れても、そこから教</p> |

| | |
|-----------------|--|
| | <p>えるのかというような状況もあるので、教育コンソーシアム等を利用して島人として頑張っていけるような強い子を育てながら、様々な業種で人が足りなくなるときに備えなければならないということを感じています。</p> <p>また、島民全員にとって大事なのが交通インフラの船ということで、フェリーについては市の方にも、何としても船の確保、航路の維持、冬場の二艘体制をとということでお願いをしてきたところですが、市の方でもちゃんと触れています。特に観光業は安心して来島できる環境でないといより一層厳しくなってきましたし、世界遺産に向けてということも言われていますので、引き続きこういった計画を提出することによって、国からも様々な形で支援をしてもらえるようにしていただければいいのではないかと思います。</p> |
| <p>総合政策課 福嶋</p> | <p>どの分野でも人材の確保というものが非常に難しくなっているところで、今、佐渡市としてはインターンシップのやり方を昨年から見直ししていたり、有人国境離島の雇用機会拡充事業についても、島内企業の事業拡大で雇用が発現する形であれば対象になるというところで、製造業の皆様にもご活用いただいているところです。また、佐渡から物を作って、島外に出していくというときに輸送に掛かるコストも非常に大事だと思いますので、これも離島活性化交付金を活用して、例えば電気機械等の輸送に掛かる経費を一部支援させていただいております。このあたりについては、継続して取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>交通インフラの部分については、特に船に関して昨今非常に状況が変わってきているというところで、みちのりホールディングスや佐渡汽船、新潟県と改めて連携を組み直しています。新しい船について一部報道が出ておりますけれども、今後も継続して協力関係の中で取り組んでいくということになると思います。</p> |
| <p>F 氏</p> | <p>雇用について、15 ページの 5 (1) のところで、「有効求人倍率においても低い水準であり、特に常用雇用の求人が不足している」とありますが、求人倍率は1倍を超えていますし、倍率自体は上がってきているので、書きぶりをご検討いただければと思います。一方で、佐渡の場合、年間を通じた求人や正社員求人が弱いところがあるので、これはそのとおりだと思います。</p> <p>また全体として、佐渡の雇用で少し足りないと感じているのが、就業訓練と障がい者雇用です。この二つはすぐに結果が出るものではありませんが、体験的な意味を含めて訓練してみたい方が結構いらっしゃる中で、島外に出ないと資格を取ったり体験したりすることができなかったり、以前は介護等もあったと聞いていますが、今はなくなっ</p> |

| | |
|----------|---|
| | <p>てしまっています。もう少し何かできるといいと思います。先日医療関係の方とお会いした際に、手帳を持つ方であったり、障がい者雇用としての認可が必要な方が増えていきっている中で、障がい者の方を活かしていかないと佐渡の雇用を守ることができないかもしれないという言葉をいただいたりもしました。すぐに結果が出るものではありませんが、東京等の大きな会社では、障がい者の方を雇うために佐渡にやってきて困り込みのような形で進めているところでもありますので、力を入れていくといいのではないかと思います。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>有効求人倍率については、おっしゃるとおりで、この表を見た中で出てくる文章としては少しおかしいと感じました。一方で、求人の中身を見たときには、正社員求人が弱いということであるとか、ミスマッチが多いというのがよく聞かれるところで、そのあたりを踏まえて書きぶりを直せないか相談してみたいと思います。</p> <p>障がい者雇用の部分に関しては、計画素案の中に要素がない状態になっていると思いますので、ご指摘を踏まえて、福祉のセクションも含めて調整をしてみたいと思います。</p> |
| H 氏 | <p>まず全体の話です。佐渡における課題があって、それに対する対策を計画として定めていただいています。そもそも佐渡において現実化されていない他の地域の課題というものがあるので、10年続くものであれば、そこに対して調査する事業を引っ張ってくることも重要なのではないかと思います。具体的な例では、外国資本が佐渡中の土地と空き家を買占めるということが起きる可能性があります。金融証券取引法等で制限がかかっていますが、それをNFTやデジタル通貨等ですり抜けてくるのが、外の地域で発生していると聞きます。まだ佐渡では現実化していないけれども、この先10年で起こりうるような課題をあぶり出すというような内容を記載して、調査事業を国から引っ張ってくるということが必要ではないかと思います。</p> <p>もう一つは教育に関する内容です。デジタル教育に関して、ICT機器の活用については記載があり、教育現場のDX化については触れられていますが、学生の教育・社会教育について、デジタル教育をしっかりと行っていくということを書いた方がいいと思います。特に2025年から共通テストの中にプログラミングが入ってきます。そこに対して佐渡としてどのように取り組んでいくのが重要なのではないかと思います。また、9番の教育の項目に大学や研究機関と連携した教育活動ということが記載されており、14番の人材の育成、確保にも記載がありますが、企業誘致を進めている立場からすると、佐渡に集まっているIT企業は非常に素晴らしいところもかなりきていますので、そういった企業との連携を記載していただいて、企業と学校が一緒になってデジ</p> |

| | |
|-----------------|---|
| | <p>タル教育の機会を増やしていくといった書きぶりにしていただけると良いと思います。</p> <p>最後に、補助金に頼らない体制づくりにお金を使うべきだと思っています。全領域では無理でも、できる領域もあります。デジタル教育の例で申し上げますと、今まで人材育成事業をやるといって、ほぼ補助金頼みでした。補助金が無くなると人材育成事業ができなくなる、だから国から引っ張ってこななければいけないということだったわけです。しかし、例えば先ほどデジタル政策室と打合せをしていましたが、私たち自身が Web プログラミング講座という 35 時間の動画講座を作成して、佐渡の生徒に無料で使ってもらうというような取り組みをどうやっていこうかという話をしています。例えば人材育成事業で作ったカリキュラムを Udemy にアップしたら収益が得られます。実際、2月にアップして七百数十名の方が購入してくれていて、5段階中4.4の評価がついています。そのお金を使って、さらに新しいカリキュラムを作ったり、バージョンアップ、ブラッシュアップといった形で、何らかの知恵を絞って補助金に頼りきらない仕組みづくりを研究していく、世の中にはそういう事例があるので、そのような書き振りを増やしていただくといいのではと思います。</p> |
| <p>総合政策課 福嶋</p> | <p>ご指摘いただいた中で、最初の外国資本のお話については、佐渡は有人国境離島という、国境の地であるということもあって、ご指摘の点については国の方でも非常に関心を持っていると感じています。今、国では重要土地の議論があって、法律の整備等も進めているところですので、国のご指導をいただきながら、調査事業のような形で何ができるか協議しながら、どのような書きぶりにできるか検討していきたいと思います。</p> <p>次に、デジタル教育について、ご指摘のとおり書きぶりが足りないところがあると思います。市としては非常に大きな関心を持っている部分で、河原田商店街にインキュベーションセンターを新しく設置している中で、高校生の教育が重要になってくるだろうということもありますし、今、スタートアップの企業が島内で非常に増えてきている中で、現場で働けるような子どもたちが増えていかなきゃいけないというところもあると思いますので、その辺りも踏まえて、企業連携の中でどのようなことができるかについて、書きぶりを加えていければと思いました。</p> <p>補助金に頼らない体制づくりについては、佐渡が自立的で循環型の社会をつくっていかうというところがございますので、財源のお話に関しても、理想としてはそういうあり方を目指すべきであると思いますので、今のご指摘を踏まえた中でどのような書きぶりができるか検</p> |

| | |
|----------|---|
| | <p>討したいと思います。</p> |
| 座長 | <p>この先 10 年が出てくる課題に対する調査事業の記述についてはどうでしょうか。</p> |
| H 氏 | <p>この計画が、現在見えている課題を分析してそれに対する対応策を記載しているわけですが、それでは遅いということです。世の中がすごく変わってきていて、10 年前には NFT やデジタル通貨がなかったわけで、それらがあることによって、法律をくぐり抜けて様々なことができてしまったりします。そういうことが起こる中で、私たちがいくら考えても限界はあると思っていて、国も情報を持っているでしょうし、様々な地域で起こりかけている問題を拾い上げて調査して、それに対する対応策を今この計画の中に入れるのではなくて、国から調査事業を引っ張ってきて、しっかり前々に対応した方がいいのではないかと思います。</p> |
| D 氏 | <p>計画の項目立ててはこれで確定でしょうか。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>国の方から作成例のような形で章立てがあらかじめ示されるものですが、まだ改正法が成立していないので、今回の作成例がどのようなものになるかまだちょっとわからないところです。</p> |
| D 氏 | <p>14 ページの新たな産業をみると、新たなと言いながらも現状に関する書きぶりになっていると思います。まだ見えていない脅威に対する対応ということだと調査事業というような項目として立ち上がってくるのだと思いますが、新たな産業+懸念される脅威といった形で新たに項目が追加されていけば、先ほど意見があった最初の補助だけあれば自走可能な事業と調査事業というところで含めて書いておくと、読み込めるような文章を作れるような気がします。項目に捕らわれずに生かしてもいいのかなと思います。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>そうですね。そのような形か、その他の項目を増やすかというところだと思います。</p> <p>新たな脅威というのは、NFT 等の資産のようなものを通じて、外から島が占領されてしまうような危機ということになりますか。</p> |
| H 氏 | <p>それは一つの例です。ただ、おそらくですが、10 年も前から、現実として、そういう話がきっと出てはいたと思います。その時は特例事業のような形ですり抜けてきましたが、今であれば、例えば NFT からお金を換える、あるいは暗号資産に変える、それによって様々な法律をすり抜ける。法律が追いかけてきたらそのビジネスはできなくなるわけですが、その前に逃げ切るといような人たちがいっぱい出てきたり、あるいは予測できないわけです。それを困りますとって止める術がないので、他の地域で何か問題が起こりかけているということはある程度調査しておくということが必要です。少しネガティブな話</p> |

| | |
|----------|--|
| | <p>ですが、いずれにしても将来の脅威であったり、ポジティブな技術革新であったり、佐渡に与える良い影響もあれば悪い影響もあると思いますが、そういったものをできるだけ調査していく部分として、調査機関に使えるような資金を確保するための書きぶりをしておいた方がいいのではないかと思います。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>有人国境離島としての性格というものが国の中でもあると思いますので、今のご指摘を踏まえて検討させていただきたいと思います。</p> |
| I 氏 | <p>すごく沢山の計画があって、それに多くの労力を割かれているという現状を踏まえたときに、この計画自体にどれぐらいの労力を割く必要があるのかということにもよると思います。</p> <p>構造的な問題があるというふうに思っていて、例えば現状と課題というところで、先ほど A さんもおっしゃっていましたが、読んでみると、なかなかうまくいっているという印象を持ちやすいです。しかし、例えば 12 ページの水産業のところ、私はアマモやブルーカーボンの取り組みをしています、アマモ場の保全、海藻養殖の推進に取り組んでいる、でもうまくいっていないところまでが現状です。だから何をしなきゃいけないかというのが課題だと思いますが、これだけ見ると、頑張っているね、うまくいっているねというところしか見えません。現状でどこまで書くか、課題に何を書くかというところが、もしかしたら各課によって少しずれがあったりもするのかもしれませんが、現状として困っているところを書かないと難しいのではないのでしょうか。</p> <p>教育のところ、26 ページで義務教育の現状と課題が書いてありますが、現状が、小学校何校です、中学校何校ですというところまで終わっています。しかし、新たな再編統合計画を走らせていて、そのための地域別の話し合いを行っているというところまで含めて現状だと思います。そして、それがうまくいっていないという課題がある。現状と課題が全く結びついていなくて、読んでいてすごく理解するのが難しいと思いました。</p> <p>そもそも、39 ページの基本方針について、皆さん色々な考えを議論してまとめられた目標だと思いますが、この目標がここに出てくるのがふさわしいのか考えた方が良くはないのでしょうか。これが一番前にあって、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくりという観点で、どういう現状で、課題があって、これから何をしたいこうとしているのかを書くべきだと思います。項目が、国で出されるモデルみたいなものにどこまで沿う必要があるか、沿っていた方が交付金等を受けやすいのであれば、言われたとおりに書いた方が良くと思いますが、もし項目立てが示されたものと一致しなくても良いのであれ</p> |

ば、もう少し未来に発展的な展望が見えるような項目立てでもいいのかなと思います。

どうしても縦割りの弊害をそのまま引きづっていて、例えば治水を見ても、治水、河川改修がどれくらい改修されているかという話しか載っていませんが、今治水に求められているのは、流域治水といって、農地も居住地も河川も含めて、面的に治水していきましょうという考え方ですよね。そうすると農業の方にも関わってくるし、治水っていうものを考えるだけでも、治水課だけで収まる話ではなくなってきています。そうした横断的な取り組みを求めていく新しい政策というものが国からも出されているので、戦略的に一歩進んで横断的な取り組みが展開しやすいような書きぶりしておく必要があります。また、産業間連携の話がなかなか書きづらいように感じますが、例えば地域資源の循環や、漁業と農業がつながることで今無駄になっている資源が活用されたり、林業や農業が繋がることであるとか、これからすごく必要になってくるので、そういうことを後押ししていくようなものがあればと思いました。

先ほどCさんが教育の話がされていて、同じような問題意識を持っているのですが、ここで書かれている教育の現状は人数と学校の数だけで、唐突に課題のところで地域学を推進することが重要というような書きぶりが出てきます。子どもたちの資質能力であるとか、本当にいきいきと生きることができているのか、それが一番教育の重要なところになりますが、そこについては一切触れられていません。なかなか触れるのが難しいということもあるのかもしれませんが、基本方針では、皆がいきいきというような文言が入っていたと思います。そういった人材育成の部分が抜けてしまっているので、どうしたらいいかというところですか。目指す姿というものが最初にあって、それに則して現状と課題が整理されていくというのが一つのやり方なのかなと思います。昨年、佐渡学の実施状況調査というものを教育委員会の協力を得て実施しています。どういう学校でどういうテーマに取り組んでいて、何が問題になっているかという調査をしているので、そういう現状を踏まえて、地域学をどうしていくかというところまで書けると本当はいいのかなと思います。

生物多様性の保全について、冒頭でお話がありましたが、これから生物多様性保全でお金を動かしていくという取り組みが世界で始まっていく中で、その先駆けに佐渡がなくなっていくという動きがある中で、それが全く見えてこないのも寂しいと思いました。もう少し地域的な特徴と佐渡らしさみたいなものが出てくると良いと思います。

| | |
|-----------------------|--|
| | <p>とは、私自身も作業しながら感じていました。おそらく当時の考え方としては、まず第1章に現状と課題があって、あとはとにかく振興なのだということで、振興の方針ということで第2章として表紙でつけて、第3章があるというような建て付けなのだと思います。しかし、そもそも第2章に書かれていることは基本理念でしかないし、基本理念であれば一番冒頭に来るのが当然です。国の方針や作成例が見えてきたところで、我々としてはこういうふうにしたいという部分も含めて話はしていきたいと思います。</p> <p>現状と課題のブレというか、読みにくい形になっているというご指摘については、現行計画をそのままアップデートしているところで、現状と課題について定義されていない中で作業をしているので、そういう形になってしまっているのだと思います。ご指摘のとおりです。それに関連して、教育の分野の現状で人数と学校の数しか出てきてないことについても、それでは当然振興方向とも繋がってもきませんし、確かにあまり意味がない書きぶりになってしまっていると思うので、担当の方に伝えていきたいと思います。</p> <p>生物多様性保全については、項目としては12番に入ってくると思いますが、確かに内容が不足しています。この間で担当課が入れ替わったりしていて、それぞれの要素をどちらの担当で強く握っていくかといったところも、ダブルチェックの形で依頼していましたが、政策として目玉になる部分は当然厚く書いていかないといけないと思いますので、再度調整していきたいと思います。</p> |
| <p>総合政策課 安藤政策推進室長</p> | <p>基本理念の部分については、福嶋からも話がありましたが、国の建て付けがどのような形になるのかにもよりますし、作り込みの構造についても、ある程度国の方向性に従わざるを得ないというところはあります。</p> <p>一方で、現状と課題の結びつきがおかしいというご指摘についてはおっしゃる通りですし、この後新潟県ともお話をしていきたいと思います。佐渡だけでなく、粟島も入ってくるので、それぞれの項目合わせや書きぶり、ボリューム感等も県と調整しながら進めていく必要があると思っています。</p> <p>もう一点、産業間連携等の横断的な分野について、総合計画の中では横断的分野という項目を設けて、農業や観光等の個別分野とは別に横断的分野というものを設けています。今回もそういうふうな作り込みができればそこで書けますが、県等との調整の中で、もし横断的分野を項目立てできなければ、各項目の方に言葉を散らしていくような書きぶりにするか、どこかにまとめて、産業の冒頭で書きぶりを変えたり、様々工夫したいと思います。</p> |

J氏

どうやって補助金を取りに行くかという観点では、この振興計画の中で重要なのは後半の方になると思います。実は、前半というのはあくまでも現状分析で、それを踏まえて今後どうしていくかという部分で、そこに書いていないと今後の振興計画を使って補助金を取り難しいという状況がありますので、そういう観点から意見を申し上げさせていただきます。

最初に、この振興計画は10年間分の計画であると認識しておりますので、国に提出した際に、10年後からのバックキャストのような考え方が全然ないと指摘されることはまず間違いありません。10年後にどういいう佐渡島になっていきたいのかということ、明確に書く必要はないと思いますが、何か書いておかないといけないのかなと思います。つまり、1,000人ずつ減るという現状認識がある中で、例えば今5万人だとして、それが4万になる未来を考えているか、あるいはある程度食い止めて4万5,000人ぐらいを目指すのか、それによって計画が変わってくるはずで、例えばバスの本数を考えるにしても、5万人の場合か4万人の場合かで変わってくると思うので、そういう部分について市の方から提案いただく必要があると思います。

個別案件に入る前に、この間NHKを見ていたら、高校生が市の幹部と質疑を交わす高校生議会というものがありまして、すごく良い意見がたくさん出ていたようですね。佐渡で毎年県大会を行ってはどうかという意見はすごくいいなと思いました。市役所の改革というものが、この計画の中に一切書いてありません。先ほどNFT等、今後未来に何が起こるかわからない、得体の知れないIT技術が始まるという話がありましたが、我々の大学の中では大学の組織の改革としてDAOという概念が出てきています。DAOとは分散型自律組織というもので、市役所の人全部市のことを考えるのではなくて、市民であるとか、市民だけじゃなく、もっと広いステークホルダーみんなですべてのことを考える組織というのが、今IT業界であるらしいです。例えばそういうことも、高校生が市の行政に対して管理するということに繋がるのであれば、悪いことばかりではなく、いいこともあるので、新しい組織運営のあり方をITと絡めた形で展開するとことを、少なくとも検討するぐらいは計画の中に入れていただくとありがたいと思います。

ここから先は個別案件です。まず、市民の方の給料をアップすることができないものかと思います。コロナ対策で補助金が出ました。過去3年間の平均に対して何%ぐらい給料が下がった人に対しては補助金を出すといたったものですが、農業や漁業の方は年によって給料が変わるので、コロナでこれだけできたのであれば、何かそういう

ことをやってもいいのではないのかと思います。漁業の方で本当に不漁でどうしてもお金がないときに、給料に対する補助金みたいなものが新しくできないのかなと思いました。

物流について、物理的な船の数ということに加えて、Amazonのようなバーチャルなものも含めて、物理的な物流以外の部分に関しても、例えばタクシーを使って物流するという話もあります。そういったソフトウェア的な部分での販路の拡大についても記載してもいいのかと思います。飛行機を使った物流についても一切書かれていませんが、今後10年以内には飛行機が飛ぶと思うので、そういうことも含めて書いていただければと思います。

生物多様性保全に関連して、世界遺産になった後に観光客がたくさん来るといふこともあると思います。広い意味での環境保全というものも、前半の現状認識では記載がありますが、後半の方で環境保全に対して、こういう補助金が欲しいということを匂わせるような記述が薄いと思ったので、その辺を書いていただいた方がいいかと思います。農水省の方でみどりの食料システム戦略というものがあり、有機農法の数値目標等が書いてありますので、生物多様性保全や環境保全と絡めて、有機農法や土壌、水の保全とあわせて、自然環境の維持を通じたツーリズム等、そういうものに関して書いていただけると良いと思います。

2次産業の振興策が薄すぎて、5行ぐらいしかないことも気になります。1次産業の振興策が2ページくらいあるので、もう少し2次産業に対してサポートいただけないのかなと感じました。工業団地の誘致は自然環境を破壊してしまったり、問題があるかもしれませんが、例えば電力エネルギー関係であるとか、第2次産業ではなくて第3次産業になるかもしれませんが、IT団地の誘致ですとか、その辺について振興策が書いていないことが気になりました。NEXT 佐渡のように、外部のイノベーターの方を島に連れてくる政策はありましたが、そもそもITや工業を振興する理屈が薄かったので、その辺について当たり障りのないことでもいいのでもう少し書いていただければありがたいと思います。

広報関係のことも書いていないと思います。市が市を広報するということはもちろんあると思いますが、佐渡の中ですごく頑張ってもらってる方がたくさんいらっしゃるの、そういう市民の方を広報することであるとか、プロデュースすることを支援していただくことはできないのかなと思います。物理的にアンテナショップを東京等につくるのは難しいとしても、市民の活動を広報するというを入れていただけるとありがたいです。

| | |
|-----------------|---|
| | <p>また、求人倍率が上がることはハッピーなことではありますが、アンハッピーだという部分もあります。求人倍率が異常に上がるのは良くないことだと思います。働く人がいないということは、本当に困ることです。特に製造業やサービス業の方というのは人がいなくなるとすごく困ると思うので、省力化の支援、例えばITによる効率化、ロボットによる効率化というものもあると思いますが、人が減ることは間違いないので、減ることに対する対策として、こういうことを考えているということを後半部分に入れていただければと思います。</p> <p>人の繋がりというものへの支援もしないといけないと思います。どうしてもSNS等、IT的な繋がりはいくらありますが、ポストコロナを見据えたときに、人と人がフィジカルで繋がるということが苦手な人が増えてくるのではないかと思います。それに対して、町内会の支援やお祭りの支援等、何かそういうことができないかと思っています。</p> <p>最後に、各課の横連携ということも是非お願いしたいです。特に農業ツーリズムについて、農家の方を訪問すると、収穫作業のときだけベトナム人を雇っているが、なかなか来てくれないということをよく聞きます。収穫作業というのは本来楽しいことなので、それを農業ツーリズムと定義して使ってもらえないかと思っています。各課の横連携ができていないと、一次産業と三次産業、両方ともに関わることなので、是非そのような視点を入れていただければと思います。</p> |
| <p>総合政策課 福嶋</p> | <p>後半の振興の方向が交付金の活用に向けて重要だということについては、そのとおりであると思っておりまして、特に新規性があるものが網羅的に読めるように作っていくことが非常に重要だと思っています。</p> <p>10年後の目標の姿については、佐渡市もまち・ひと・しごとの総合戦略を持っており、人口ビジョンの方で、何年に何人という目標があります。人口の目標についても、この計画においてしっかり位置づけていくことが非常に大事だと感じました。一方で、この離島振興計画にはKPIが全くない状態です。今回の改正で、KPIを定めるように国からお達しが出るかもしれないという情報もあります。国の方針によりますが、KPIを設定することになれば、総合計画等で様々なKPIもあるので、そのあたりを計画に入れていって、人口の目標値がありながら、様々なKPIが立っていくという整理をしていくことになるかもしれません。</p> <p>また、ある程度網羅的に記載していかなければならない中で、ご指摘のあった行政の組織運営や広報といったトピック自体がこの計画の中になく状態になってしまっているため、追加できないか検討しなければいけないと思います。</p> |

| | |
|----------|--|
| | それぞれの項目でご指摘いただいた様々な課題の部分に関しては、担当課の方に伝えながら、各課の横連携も含めて記載に入れていけないか検討していきたいと思います。 |
| J氏 | 県大会を佐渡で開催するという提案だけでもお願いします。 |
| 総合政策課 福嶋 | 高校生議会の提言も何らかの形で市政に取り入れていけないかという事は総合政策課内でも議論しています。 |
| J氏 | 高校生には、自分が言ったからこうなったという成功体験がすごく重要です。NHKにまで放送されたので、是非大人の方でサポートしていただければいいなと思います。 |
| K氏 | 個別のお話は皆さんからありましたので、全体のバランスの部分についてお話させていただきます。 交付金を取るための術という部分で、様々な書き方があるのだろうと思います。ただ、内容について、例えば観光だと3枚ぐらい分量があったり、それぞれ力の入れぶりが違ってきます。個人的な意見としては、私であれば全ての項目をA4・2枚に収めるという形にしたいと思いました。例えば脱炭素地域の再生可能エネルギーなんかは半ページしかありません。そういう部分を含めて、例えばA4・1枚で収めるとか、A4・2枚で収めるとか。あまりにもバランス感覚が悪くなってしまうと、見ている方がわからなくなってしまいます。交付金の関係もあるので、ここに力を入れて佐渡は取り組んでいくということであれば、それはそれでいいと思います。ただ、やはり文章というのはどうしても長くなると非常に読みにくくなってしまいますので、コンパクトにさせていただけるといいのではないかと思います。 |
| 総合政策課 福嶋 | 先ほどからご指摘をいただいている部分で、それぞれの項目でアンバランスが見られるというところがありますので、できるだけバランスを取りつつ調整したいと思います。一方で、維持していくものと、新規性を持ってチャレンジングにやっていくもの、項目によって違いがあると思いますので、全体的に調整を図りたいと思います。 |
| L氏 | 佐渡航路の料金関係と空港の2,000m化については疑問点があります。航路については、両津から本線、小木、南線を通して直江津に抜けるという循環的なものになりますが、航路は国道ということで、料金については、ジェットfoilは新幹線並み、カーフェリーは電車並みになっていると聞いています。島民割引がある一方で、島外の方は別途料金という扱いになっていますが、一般的に国道というのは差別なしが普通なので、どうして差別しているのか疑問です。それによって観光客が来づらいという部分があると思いますので、島の方から声を大きくしていくのがいいのではないかと考えております。 佐渡空港の2,000m化については、もう何十年も前から話が出ていま |

| | |
|-----------------|--|
| | <p>すが、一向に進展しない状況です。飛行機が再開することもありますので、スケジュール化に向けた行動をして欲しいです。用地交渉が進んでいないと聞いていますが、用地交渉は県がやるのか、市がやるのか、どういう問題点があるのか島民に明らかにして欲しいです。スケジュール化と合わせて、前進を図るためにお願いしたいです。</p> <p>この計画と直接関係しないかもしれませんが、佐渡の振興を願って発言しました。</p> |
| <p>総合政策課 福嶋</p> | <p>まず航路について、おっしゃっていただいたとおり、カーフェリー、ジェットフォイルの島民利用に関しては、JR並みの運賃に引き下げる事業を国・県・市の連携の中で実施しています。実は、島民以外が全く対象になっていないかという、実はそうではなくて、準住民という仕組みが制度の中にあります。どういう人が対象なのかという、佐渡出身で進学するために島外に出た学生や、逆に移住を検討してお試し住宅に入居されている方、島外の連携大学等も準住民という形で島民と同じように運賃の低廉化を受けることができることになっています。ご指摘のとおり、我々島民からすれば観光客の方にも制度を使っていただいて、安価に島へ渡っていただきたいということは、もちろん念願としてはありますが、なかなか直接的にそこに行き着くことは難しいので、我々としては様々な切り口で対象を拡大していただいているところです。今年、介護帰省の方々をこの低廉化事業の中に含めていただけることになりましたが、これは佐渡からの発信で、国と折衝して拡げていただいているという状況です。住民票が島外にあって、春から秋までは佐渡にいて冬だけは島外に住んでいる方であるとか、そういった二地域居住の方も対象にしてみたいという要望もお願いしているところです。直接観光客全員というのはなかなか難しいと思いますので、段階的に拡げていきたいということです。</p> <p>空港関係のお話について、なかなか進展しないので、具体的なスケジュール化をというお話でしたが、計画の中で2,000m化を目指すということは明言している状態ですので、どこまでそれをはっきりと書けるか、担当課に伝えて、今のご意見を踏まえて検討していきたいと思っています。</p> |
| <p>M氏</p> | <p>農業の方でも、人手不足、高齢化が課題となっており、農福連携ということで、R3年、R2年と取り組みました。事業所の方との連携ということで、いろいろ作業の程度があるかと思いますが、そういった方々に農業の現場に行ってもらって作業をしてもらうというようなことを進めてきました。なかなか難しい点もあるかと思いますが、そうした横の繋がりで障害をお持ちの方々が現場に出て行って、生活が</p> |

| | |
|-----------------|---|
| | <p>できるということも要素として入れていただけるといいのかなというふうに思いました。</p> <p>39 ページの振興の基本的方針のところ、五つの柱として、住民がこういうふうにしていくというようなことが書いてありますが、いきいきと暮らせるまちづくりの中で、佐渡に住む人たちだけではなく、島外から来る方々をおもてなしできる気持ちというか、観光に携わる方々だけではなくて、島民の方々にもそういった気持ちを持ってもらえるような要素も入れてもらえればと思いました。日曜日にトライアスロンがりましたが、ボランティアじゃなくても、道路に出ておじいちゃんおばあちゃんたちが応援する姿こそが、来てくれる人を応援するおもてなしの心だと思います。お金を払って環境美化を図る部分もあると思いますが、それぞれの庭先をそれぞれの方がきれいにすることであるとか、集落の中できれいにしていくことが全体に波及していくのではないかと思いますので、そのような要素を入れていただくと良いと思います。</p> <p>最後に、毎年 1,000 人の人口が減るということについて、高校を卒業すると皆島外に出てしまいますが、やはり帰って来られない実情もあるかもしれないので、何故帰って来られないのかという課題整理であるとか、どうしたら帰って来られるのか、Uターンを促進する中で、本当の根本的な課題が何かというところが必要だと思います。郷土を愛する心は皆あると思いますが、帰って来られないのは、経済的なものなのか、仕事がないのか、親と一緒に生活するのが嫌なのか、アパートの家賃が高いのか、そこを改善していかないといけないのかなと思いました。</p> |
| <p>総合政策課 福嶋</p> | <p>農福連携のこと、農業全般含めてですが、新潟県の方でも佐渡の農業、特に園芸作物等で全面的にバックアップをいただいているところですし、これからこの計画素案を県にお示しして、一発勝負ということではなく、県からも様々ご指摘、ご指導いただいた中で書きぶりを見直していくということになりますので、県からのバックアップも含めて、この計画の書きぶりができていくということになると思います。</p> <p>続いて、島民のおもてなしの部分について、実は 52 ページ 53 ページあたりにおもてなしの部分についてはある程度記載がありまして、特に 53 ページ 1 ページ目のところに、大手空港会社との連携によるという部分で、観光施設等を対象におもてなしの心を授けていただいているところでもありますので、今のご指摘も含めて、もう少し広げられないか検討してみたいと思います。</p> <p>最後に、人口の減少の部分で、若者が佐渡に帰ってくるのが難しい</p> |

| | |
|----------|--|
| | <p>要因について、様々な要因があると思いますが、総合政策課をはじめとして、各課で議論した中で、冒頭の人口の部分に反映できないか検討していきたいと思います。</p> |
| 座長 | <p>最後に私の方から意見させていただきます。</p> <p>まず、全体通して感じたことですが、計画全体の構成について、佐渡市の総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略と項目自体を合わせる形でつくった方が分かりやすいのかなという気がしました。特に、まち・ひと・しごと創成総合戦略については KPI も含めて記述をしているので、そういったものも全体として盛り込んでいく必要があるのかなと感じました。</p> <p>個別の部分について、様々お話が出ておりましたが、もう少し課題に踏み込むべきところがあるように思いました。佐渡汽船の関係にしても、既に佐渡汽船が中古のカーフェリーを購入する動きも出ているわけなので、そういった動きの中で、この後どういった課題が出てくるのかということもありますし、それを踏まえてどういう目標を作っていくのかということも必要になってくると思います。</p> <p>また、計画中の数値の関係で、国勢調査等、統計資料を基に数値を記載している中で、国勢調査は令和 2 年が最新ですが、それぞれの個別のセンサス等は何年が最新か何も記述がなく、バラバラになってしまっているので、注意書き等が必要になるのかなという気がしました。</p> <p>最後に、計画のスケジュール感について、少し気になったのが、議会への報告が何も入っていませんが、議会への報告は必要ないのでしょうか。</p> |
| 総合政策課 福嶋 | <p>まず、議会への報告が必要かどうかについて、計画の策定に当たって、法的に報告が必要であるという定めはありません。しかし、佐渡にとって重要な計画であって、佐渡として県に対して素案を提出するというプロセスがあるので、進捗状況については、委員会等、適した場で、議会にも状況を報告しながら進めていきたいと考えています。</p> <p>次に、データ出典の年次がバラバラになっているというご指摘について、これは仕方がないことだと思いますので、どこかに最新のデータを掲載しています等、何かしらの注意書きを入れたいと思います。</p> <p>最後に、個別の課題については、本日様々なご意見をいただいたところなので、もう少し切り込んだ書きぶりできないか、様々なバランスを見ながら定めていきたいと思います。</p> |
| 座長 | <p>それでは、続きまして、次第 3. 協議事項「その他」について事務局から説明をお願いします</p> |
| 総合政策課 松本 | <p>総合政策課の松本です。私からは資料 No.3、4 について、まとめて</p> |

説明させていただきます。

資料 No.3 について、前回お示しした令和 3 年度地方創生推進交付金の効果検証の資料になります。前回と少し資料の作り込みが違っております。前回お配りした資料が見えづらい様式になっていましたので、少し体裁を整えさせていただきました。記載内容については変更ありませんので、よろしくお願いします。誤字脱字が残っている部分があったので、また後で直させていただきますと思います。個別プロジェクトが 4 つ掲載してあります。それぞれの事業内容については前回ご説明しましたので今回省略させていただきますが、第 1 回の本部会議においていただいたご意見や推進会議の意見を踏まえて、修正し反映した資料になります。本部会議では、数値で事業評価をもっと示すべきだというご意見をいただいたところです。そちらにつきましては、事業評価や事業に対する今後の方針ということで、表の中に修正で反映しております。また推進会議では、関係者の皆様から評価について補足いただいた内容があります。その内容につきましては、各課に繋ぎまして、次年度以降の授業の組み立て、予算計上の際に参考にさせていただければと思っております。なお、資料 No.3 については、第 1 回の会議でお示しさせていただいた内容でもありますので、本日この場ではご意見いただくことはしません。配付した意見書にご意見をいただければと思っておりますので、後日ご意見があれば提出をお願いします。

続いて資料 No.4 になります。こちらも前回お示しさせていただいた令和 2 年度地方創生臨時交付金の効果検証になります。皆様からいただいたご意見について説明させていただきます。

4 ページ上の図 3 について、生活保護申請の内コロナ関連の申請とはどのような定義かというご質問をいただきました。関係課に確認したところ、明確な基準がなく、担当者と申請者が相談する過程の中で、企業の経営悪化等で著しく収入が減少したなど、コロナの影響を受けたという相談を聞く中で、申請件数としてカウントしたものになるということでした。

続いて、最後の 23 ページ、No.81 の住宅リフォーム事業について、事業中止になった理由は何かご質問をいただきました。事業申請後に資金調達の見通しが立たなくなったなどの理由があるということで、全 21 件の理由をすべて把握してはいませんが、申請者の都合ということで取り下げているという内容になっております。

また、この計画の効果検証の全体に関してですが、KPI を全て定量的に評価することは難しく、定性的な政策もあることから、数値で達成とはしているものの、概ね達成としているようであればコメントが欲

| | |
|----|---|
| | <p>しいという意見もありました。前回お示しした中の表に、達成、概ね達成、未達成として評価している欄がありましたが、再度内部でも協議しまして、実は令和2年度の臨時交付金の実施計画上には、KPIは設定していないため十分な評価ができないというところもありましたので、今回はあくまで実績、やったことに対する評価を書かせていただいて、個別ごとの達成であったか未達成であったかという欄は削除させていただきました。国の方針で令和3年度から臨時交付金にKPIを設定しておりますので、令和3年度の効果検証から達成・未達成の評価をしていきたいと思っております。</p> <p>最後に、どのような事業で効果があったか、事業実施の前後でどのような変化があったかについて、はじめにまとめてくれる良いのではないかというご意見をいただいております。6ページに、全体的にどうであったかということで、まとめ書きをさせていただきました。コロナがはじまって、最初の国の緊急的な措置として始まった臨時交付金なので、基本的には感染拡大の取り組みが数多く実施された中身となっております。令和3年度以降は感染防止からウィズコロナ、アフターコロナの経済回復に向けた事業に取り組んでいますし、今年度については、原油価格や物価高騰から生活者が影響を受けているということで、実情に応じた支援をできるように進めております。こちらの効果検証につきましても、一度お示しした内容ですので、改めてこの場で意見をいただきませんので、持ち帰っていただいて内容を確認していただき、ご意見があればメールや電話等でいただければと思っています。</p> |
| 座長 | <p>それでは、質問等については別紙の意見書もしくは電話等での対応をお願いしたいと思います。</p> <p>全体を通しまして、質問、意見等はございますか？ (質問、意見なし)</p> <p>これで本日の協議事項は全部終了いたしました。これをもちまして本日の推進会議を閉会したいと思います。本日は大変ありがとうございました。</p> |